

- 寝屋川流域では、河川、下水道等が一体となった総合治水対策として、遊水地、地下河川、流域調節池、下水道増補幹線等の治水施設の整備を推進中。
- 寝屋川流域ではこれまでの施設整備により、**今回の豪雨においても施設が無い場合に想定される約329haの内水浸水被害を解消し、多大な効果を発揮！（浸水被害軽減効果額は約350億円）**
- 治水施設の効果により、今回の豪雨による流域内の家屋の浸水被害はゼロであった（8月27日時点）。しかしながら、**降雨開始後1時間程度で、中鴻池調節池の貯留量が最大容量である20,100miに達して**おり、長期間にわたる降雨に対しては浸水被害が生じる可能性が考えられる。**流域内の更なる治水機能向上のためには、施設整備の進捗が必要であることを実感！！**

< 今回も、治水施設が効果を発揮し、浸水被害を軽減！！ >

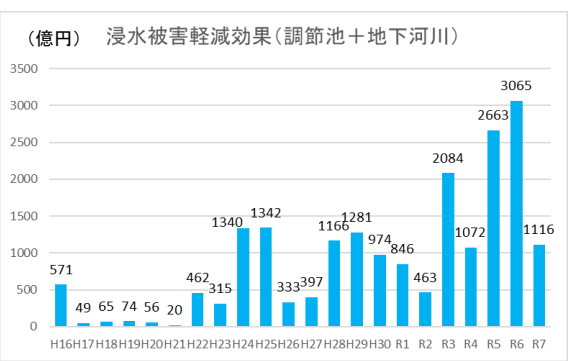


※ 簡易シミュレーションでの試算による。ただし、流域対応施設、外水施設の浸水被害軽減効果は対象外。

【寝屋川北部地下河川集水エリアでの被害想定（今回豪雨）】



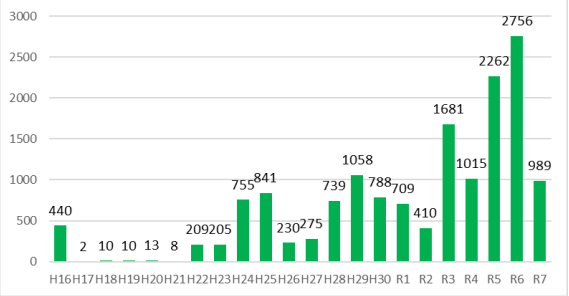
【治水施設によるこれまでの浸水被害軽減効果（想定）】



【中鴻池調節池集水エリアでの被害想定（今回豪雨）】



【中鴻池調節池集水エリアでの被害想定（今回豪雨）】



H16年以降の総効果額は、☆1兆9,754億円を突破！！☆

【令和7年8月24日の施設貯留量 約36.2万m³（供用済全貯留量 541.7万m³）】

- 【外水対策:2.8万m³】
- 【内水対策:33.4万m³】
- ▲：寝屋川治水緑地（0.4万m³）
- 花園多目的遊水地（0.3万m³）
- 打上川治水緑地（2.1万m³）
- ：地下河川 22.6万m³（北部：15.1万m³、南部：7.5万m³）
- ★：調節池 10.8万m³